

第5回中学校におけるこれからの部活動の 在り方を考える有識者会議

議事要旨

日 時：令和8年5月29日（金曜日） 午前10時から正午まで

会 場：東京都庁第二本庁舎 31階特別会議室 27

出席委員：10名（代理出席1名）

1 開会

東京都教育委員会挨拶

- ・昨年度の議論を踏まえ、部活動ガイドラインと推進計画を策定・公表した。部活動の地域展開、拠点化や外部人材の活用を各地域の実情に応じて組み合わせる「東京モデル」を示すことができた。
- ・今年度の議題は、成果指標の設定についてである。東京都が示す成果指標に基づき各区市町村は様々な計画を策定する。確かな成果指標を定めるべく、限られた回数ではあるが、委員の皆様を活発な議論を期待したい。

2 概要説明

- (1) 国の動向について
- (2) 東京都の現状について

3 協議

協議テーマ

「推進計画における成果指標の設定について」-東京モデルの取組を着実に前進させていくために-

I 論点

① 設計の妥当性

- ・「東京モデル」はそれぞれの地域の学校、そして部活動の実態に応じて、地域展開や地域連携を組合せて子供たちの活動機会を充実させていくというものであることから、KPI（代表値）は部活動と地域クラブ活動を分けて数値化するよりも、子供たちのスポーツ・文化芸術活動として設定するのがよい。
- ・満足度を測る際に、活動の何をもって満足とするかは生徒によって違う。例えば、参加生徒が本格的な競技志向なのか、あるいはレクリエーション志向なのかによっても活動の満足度は異なる。友達と楽しく過ごせるから満足しているケースもあるため、個々のニーズを補うような設問を合わせて、満足度を分析する必要がある。
- ・満足度の指標の取り方について、補完的な設問は重要である。選択肢が増えたことや、外部人材の活用により指導の質や、熱意、専門性が高まることで成長を感じることや、拠点化で生徒が

集まってチームを組めるようになったことなども、満足度には影響してくる。

- ・教員の働き方改革が進められている中で、部活動の負担軽減によって、教科指導が充実できていることや、学校行事の準備ができるようになったことなど、教育の質の向上として確認することも大切である。また、ライフ・ワーク・バランスの視点から、家庭との時間が増えたことや、リフレッシュできる時間が増えたことで仕事にも前向きに取り組めるようになったなども大切である。これらを補完的な質問で確認していただけるとよい。
- ・代表値としての KPI を置きつつ、他設問との整合を見ながら解釈するというのは妥当な評価につながる。子供たちが求めているものの中で、教育的意義部分の何を得たいと思っているのか、実際に何を得たのか、身に付けたのかを見ていくと、教育的意義をしっかりと継承・発展している部分、そして新しい価値を創出している部分が可視化されていくと考える。

② 判断の示し方

- ・満足度は 90%と高い水準にあるが、一律の目標値を設定するのではなく、経年での変化を見ていくことが重要である。今年、来年、再来年とかけて、どう変化していくのかを見るのがよいと考える。また、様々な選択肢があり、多くの経験を得る機会となるのが部活動の原点だと思っているため、継続意欲の項目では「一つのスポーツを続けていきたいか」という聞き方ではなく、「これからもスポーツや文化芸術活動をしていきたいか」など、聞き方を工夫する必要がある。
- ・学校内で新しい部活動を増やすことは難しさもある。自分のやりたい活動が学校や地域にあるのかという聞き方でよい。やりたい活動がなければ、やりたい活動は何かという中身まで聞いていくことで次の取組みにつながっていくと考える。
- ・「東京モデル」の地域展開の中に、休日における多様な体験活動プログラム YAT が示されており、YAT によって活動の選択肢が広がったかどうかを確認することは、非常に大切なことであると考え。選択した理由を確認することで、実施場所等を検討する上で大切な項目となる。
- ・教員について、負担と感じている点は、内容の分析をする必要がある。時間的なことなのか、質的なことなのかを把握することは重要である。補完設問として教員の配置された部活動の専門性についても聞く必要があると考える。
- ・教員の負担軽減が図られるとともに、生徒の満足度が維持されているのであれば、取組の成果として捉えることができる。
- ・部活動においては、技術指導も一つであるが、保護者会の開催や道具の購入、ユニフォーム作成など運営面の負担も大きい。また、大会運営に携わっている教員もいる。大会運営の有無によって負担の大小は異なるため、大会運営に関する内容も聞いた方がよいと考える。
- ・教員には異動があり、自分が担当している部活動が既に「東京モデル」導入済の場合も考えられる。調査に回答する上で、自分が担当する部活動に改革・変化があったのか確認することで、データとして正しいデータが取れると考える。また、「東京モデル」を把握していない回答者のために、設問に説明があると回答しやすい。
- ・特別支援学校は障害種別によって、部活動の設置状況、活動状況が大きく異なっているため、

障害種別についても把握する必要がある。

- ・部活動に関わっている外部人材の方についても子供たちのために指導等をしてくださっているため、調査に加わっていただき新たな改善点や問題点を見つけられればよい。

Ⅱ 論点

① 対象の設定

- ・区市町村、学校、部活動によって取組の進捗状況が異なるため、調査対象校は区市町村に選ばせていただけるとありがたい。例えば、地区の学校規模の割合で抽出し、「東京モデル」に着手している学校と未着手の学校から抽出するとして、その抽出校は区市町村に選ばせる必須調査と定めて、都のデータとしては必須の調査校をデータとして扱うというような方法が考えられる。対象校を決める上では、都で基準を示していただけると区市町村はありがたい。
- ・区市町村によっては全学校を対象にした進捗状況やニーズを把握したい場合もあるため、区市町村の任意調査を同時に進行できるのが理想である。
- ・対象として、1年生はまだ部活動に入って間もなく、3年生は進学に向かっていく状況である。成果を分析する観点では、活動経験や活動状況を踏まえると、中学2年生が比較的安定した対象になると考える。
- ・部活動数は減少傾向にある一方で、地域クラブ活動は増加傾向にある。地域クラブ活動の指導者にも現状を聞く機会が必要である。
- ・今後の大会運営についても地域クラブ活動等に関わってもらうことを考えると、地域クラブ活動の指導者等も対象にした方がよい。
- ・大学としては、運営にも少しずつ関わって、マネジメント的なところも勉強するよう指導をしていますので、外部人材の指導者の意向も確認していただけるとありがたい。例えば、大学生が指導者をしている場合、学生がどんな体験をしているのか、どんな感想をもっているのか、満足しているのかということは、大学の中では確認できるが、他大学の学生が、どのように考えているのかということころは、大学としても知りたい部分である。

② 分析の方法

- ・対象校の考え方は、学校規模や地域特性、また「東京モデル」の実施状況を踏まえて抽出する方向性でよい。分析の方法については、全体の報告書や、各区市町村のデータを区市町村ごとに情報提供いただけるとありがたい。
- ・自治体によっては教員が指導・運営に全く関わっていない場合もあり、部活動指導員のみで運営されている部活動もある。そういった場合は、運営も行っているので、部活動指導員がどのような仕事をしているのか確認した上で、意見を聞けるとよい。
- ・アンケートの結果はホームページ等で公開していただけるとありがたい。大学を含む関係機関が現状把握や分析に活用できるよう、結果を公開することは有意義である。
- ・特別支援学校へのアンケートについては、答えやすい内容にしていく配慮が必要である。基本的

な質問内容をベースとした上で、全体の数値に入れつつも、中学校と特別支援学校を分ける部分があってもよいと考える。

- ・「東京モデル」の取組が進むと、非実施校が少なくなり、実施校・非実施校で分けて調査を実施していた場合に、偏りが出てくる可能性も懸念される。中間の３年目で再度検討をする必要がある。

(3) 協議のまとめ（松尾座長）

- ・複数の設問を設定した上で、主となる設問となる KPI（代表値）の作り方、あるいは主設問に対して補足するような設問を適切に入れながら実施することや主設問の中を詳細に見られるような設問を作ることが重要である。
- ・部活動の地域展開の目的は何かということを念頭に置き、地域と学校が連携しながら、活動機会の充実につながる関係を構築していくことが重要である。そして、子供たちにおいては、スポーツ・文化芸術活動の満足度とともに、部活動の教育的意義の継承・発展、また地域展開等による新たな学びや地域で活動することの新たな価値が生み出されているかという視点が重要である。
- ・教員の負担軽減については、いわゆる軽減という話だけではなく、負担感の内容を明らかにしていくことで、負担の根の部分が残ってしまわないように課題をしっかりと掘り下げる必要がある。

4 事務連絡

今後について

- ・第６回の有識者会議の開催について

5 閉会

東京都教育委員会挨拶

- ・設問の妥当性や評価・分析の方法、対象の設定等、多角的な視点から活発な議論が行われ、今後の成果指標の具体化に向けて示唆に富んだ御意見を数多く頂戴した。
- ・７月に有識者会議を開催予定である。その後、成果指標を含む案を示す予定である。それを基に各地区で計画を作っていただくように考えている。
- ・年度を通じて「東京モデル」の周知と定着を図っていきたいと考える。